

家庭教育力の強化を図る

家庭・地域・学校が連携するPTA活動

東海市立平洲小学校PTA

1 はじめに

本校は、東海市の中ほどに位置し、明治40年に上野第二尋常高等小学校として開校された。その後昭和44年に上野町と横須賀町が合併して東海市が誕生し、東海市立平洲小学校となった。東海市は「鉄の町」としても知られており、昭和39年には関連企業団地への入居による児童数急増に伴い、富木島小学校、明倫小学校、渡内小学校と分離を行い現在に至る。



【平洲小学校校舎】

平洲小学校の名前は、荒尾町で生まれた江戸時代の儒学者、細井平洲先生に由来する。東海市では、この細井平洲先生の生い立ちや教えをまとめた教材があり、市内の小学校、中学校で特別の教科 道徳の年間計画に位置付けて取り扱っている。



【細井平洲像】

本校は現在、全校児童839名、学級数は32学級（通常学級25、特別支援学級7）、PTA会員数は632名である。PTA活動は、年度ごとに構成されるPTA役員・委員で行うものや、会員に加え、OB・OGで構成されるボランティア活動も盛んである。

2 研究への取組

(1) 研究のねらい

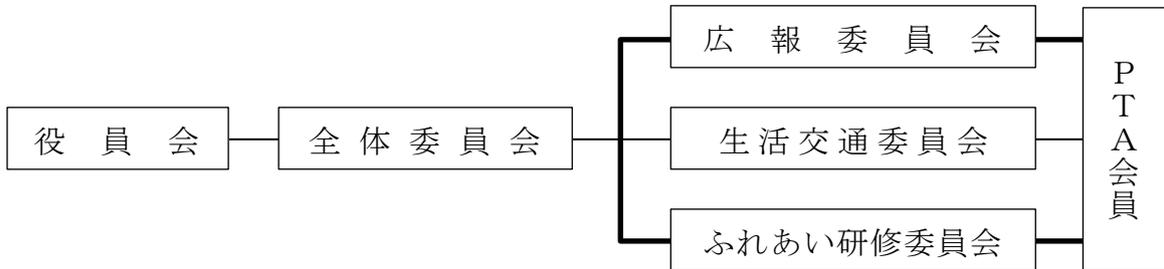
PTA研修会への参加だけでなく、学校教育活動への協力、登下校の見守りなど、あらゆるPTA活動が、直接的でなくても、家庭教育力の強化につながっていくと考える。しかし、共働き家庭や母子家庭・父子家庭の増加により、年々、PTA活動への協力を得ることが難しくなっているように感じている。また、新型コロナウイルス感染症の流行が次々と押し寄せ、PTA行事だけでなく、PTA役員会などの会合ですら中止せざるを得ない状況にあった。

この状況下でPTA活動をすすめるために、活動方法や内容を工夫して行っていくことにした。

(2) PTAの組織と主な活動

平洲小学校のPTA役員は、会長1名、副会長2名（うち1名は母代）、書記1名、会計1名、会計監査2名の計7名で構成されている。それ以

外に、広報委員会、生活交通委員会、ふれあい研修委員会と3つの専門委員会を置いている。広報委員会は、PTA新聞発行による広報活動を行っている。生活交通委員会は、交通当番表の作成、交通訓練の協力が主な活動である。また、ふれあい研修委員会は、PTA研修の企画、運営を行っている。



【PTA組織図】

さらに、会員・OB・OGで組織している学校支援ボランティアがある。学校支援ボランティアでは、学習支援だけでなく、読み聞かせや、学校の環境整備をボランティアコーディネーターが中心となって行っている。

3 実践活動の概要

令和3年度、4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、PTA活動が十分に行うことができなかつた。そのなかで、行うことができた、また今後行うことを予定している活動について紹介していきたい。

(1) 朝の交通当番

朝の交通当番は、毎年、4月にPTA会員から参加者を募集している。その後、PTA生活交通委員が交通当番表の作成を行っている。交通当番表の作成には時間がかかるが、生活交通委員の方は都合をつけて何度か学校に足を運び、作業をしてくださった。

朝のPTA会員の見守りのおかげもあり、登校中における交通事故は1件もなかった。



【朝の交通当番】

(2) 交通訓練

① 4年生自転車訓練

令和3年度は、愛知県に発令された非常事態宣言が明け、感染者数が減っていたことから自転車訓練を実施することができた。交通指導員による自転車の乗り方についての説明を受けた後、児童は



【自転車訓練の様子】

運動場で自転車訓練を行った。このとき、協力してくださったPTA会員の方には、横断歩道や交差点に見立てた箇所に立っていただき、自転車の乗り方を見守っていただいた。ときには、一時停止や後方確認を忘れていた児童に対し、優しく声をかけてくださった。

コロナ禍ということもあり、協力してくださったPTA会員の方には、毎回自転車の消毒作業も行っていただいた。

② 1・2年生歩行訓練

1・2年生がペアでグループをつくり、歩行訓練を行った。歩行訓練では、学校を出て、登下校でも使う通学路を使って実施した。協力してくださったPTA会員の方には、主に横断歩道に立っていただいた。実際に車が行き来するため、歩行訓練が安全に行われるように見守ってくださった。



【歩行訓練の様子】

(3) PTA新聞の発行

PTA新聞は、PTA広報委員会が中心となり学期ごとに1回ずつ、年3回発行した。児童の活動がわかるように紙面は写真が中心である。毎年、最初に発行される新聞には「先生の紹介」コーナーがあり、PTA会員の方々に職員のことを知ってもらう機会となった。



【先生の紹介コーナー】

(4) PTA研修

令和3年度は、会員のみなさんの新型コロナウイルス感染症への不安が強いことから、校内での研修は実施することができなかった。

そこで、東海市教育委員会が主催した「家庭教育シンポジウム」に参加した。アンガーマネジメントコンサルタントによる講演では、「子どもたちは、中高生ともなると、自分なりの『~すべき』というものをもっており、本人はそれが正しいと思っている。大人はその子の『~すべき』を共有し、否定せず、アドバイスをせずに寄り添ってあげるとよい」など、子どもと接する方法について研修することができた。

令和4年度は、新型コロナウイルスの感染者数が減ってきたことから校内でのPTA研修を計画している。郷土の偉人、細井平洲先生について講師を招き、学習する予定である。

(5) ボランティア活動

① 学習支援ボランティア

学校教育活動の中で、教育効果を上げるためや安全に実施するために学校から依頼し、ボランティアコーディネーターの方に協力者を調整していただいている。ほとんどの児童にとって経験のない

ミシンを扱う授業では、「糸がほどけた、切れた」という場面が何度かあり、担任一人では対応し切れない状況であったが、ボランティアさんの助けがあり、スムーズに授業を行うことができた。また、のこぎりを使う授業では、授業が安全に行われるように見守っていただき、ときには力添えをしていただくこともあった。



【ボランティアによる補助】

② 読み聞かせボランティア

各学級で年に2回程度、読み聞かせボランティアによる読み聞かせを行っている。

かつては、児童を近くに集めて読み聞かせを行っていた。一時は、新型コロナウイルス感染症の影響から実施するかどうかを考えたが、児童を近くに集めず、通常の座席位置にすることで、児童と読み手の距離を少しでも確保した。距離がある分、読み手の方は大きめの絵本を用意するなどの配慮が必要となるが、コロナ禍でも工夫することで、実施することができた。



【読み聞かせの様子】

③ 草花ボランティア

主に草花について学校の環境整備を行っている。毎月2回ほど、計画的に実施している。広い敷地に点在している花壇の整備にボランティアの存在は欠かせない。

直接的に児童に関わる活動ではないが、児童は、授業の傍らでボランティアさんの活動を目にしている。そうしたことを通して、環境を整えている人の苦勞や、環境が整っていること

の美しさを感じ、心が豊かになるのではないかと思う。



【花壇整備活動】

4 おわりに

家庭教育力の強化をテーマにPTA活動を行ってきたが、現代における家庭事情やコロナ禍で、PTA活動だけでは非常に難しいと感じた。一方で、PTA活動が、家庭教育力の強化のきっかけになるのではないかとも思った。今後は、PTA会員がPTA活動やボランティア活動により参加してもらえるように、手だてをPTA役員と共に考えていきたい。